

Free School
since 2004
in Osaka

みなも通信

vol.4

[もくじ]

■ 特集：2006 年度活動報告

- ・ 他団体との協働（松浦豊）…1
- ・ 子どもたちとの日常（中居史）…2
- ・ 「まんま会」の1日（中村有美）…3
- ・ 運営レポート（今川将征）…5
- ・ 「居場所」情報誌の制作（中村有美）…6

● コラム

- ・ ボランティアの声①（入部正也）…7
- ・ ボランティアの声②（野上彩）…9
- ・ 「不登校はオセロのよう」（中村有美）…9

◆ みなもけいじばん…10

◆ スタッフひとこと…11

◆ 編集後記（中村祥規）…12

■ 特集： 2006 年度活動報告

こんにちは、フリースクールみなもです。ようやく春めいてきましたが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。おかげさまで「みなも」も、3年目の春を迎えることができました。スタッフだけで始めたみなもですが、子どもたちの数も増えて、ずいぶんと賑やかになってきています。

さて、子どもが増えれば、活動のようすもおのずと変わってきます。また、よその団体とのお付き合いも増えたり、助成金をいただいたりもするようになって

きました。

というわけで今回は、スタッフそれぞれが2006年度の活動を振り返りました。少しずつ変わってきたところ、変わらずにいるところ、さまざまだと思いますが、これをお読みの皆さんに、少しでも「みなも」の雰囲気がお伝えできれば幸いです。

◇ 報告その1： 他団体との協働

2006年度の、フリースクールみなもからの対外的な働きかけを紹介します。

「ふりー！すくーりんぐ」での活動

まず、「ふりー！すくーりんぐ」（関西中心のフリースクール等のネットワーク）で毎年秋に行なっている一泊交流会（9月22・23日）の実行委員となりました。特にボードゲーム会の主催と、英語多読の紹介を行ないました。ボードゲーム会には多くの子どもやスタッフ、ボランティア、兵庫教育大学の学生さんらの参加があり、大変に盛り上がりました（夜中にもメイン会場でやっていたり、2日目も端っこでやっていたり…）。英語多読の本もかなりの関心を集めたようで、「どこで買えますか？」などの質問もいただきました。

ラミ中さん・フォロさんとの交流

また、一泊交流会の前後1ヶ月にも、フリースクールの子もどうしていろいろと交流しあう場を設けようということから、明石公園でのテニス・野球を企画したり、他団体とのボードゲーム会を企画しました。特にボードゲーム会に関しては神戸市兵庫区の「ラミ中学校分校」と仲良くなり、結構地理的には遠い

んですが、一ヶ月に一度くらいのペースで交互に会場を提供しあって交流を行ない、大変好評でした。

近い場所としては、大阪市中央区の「フリースクールフォロ」さんとも多くのことで合同企画を持ち、テニス会、スタジオ企画、日本橋へお出かけ、声優研究会などを一緒に行なって、和気あいあいとしています。

特に、テニスについては、フリースクール等にイベントを提供していただいている大阪府青少年活動財団の2005年までのテニス企画に対して、子どもたちから「練習ばかりで試合をさせてもらえず、あまり楽しめなかった」という声を聞いていたため、財団の方に「もっと初心者向けに簡潔な練習と、楽しめる試合方式を導入した方がよいですよ」という提案を送りました。すると、先方から「ぜひみなもの方で主導してもらえれば」というお話をいただき、2006年度の夏4回、冬3回のインドアテニス交流会は、おもにみなも主導で活動させていただくことになりました。このインドアテニス交流会には、フォロさんや20代以上の青年の支援団体も含め、いろんなところからの参加があり、大変に盛り上がるものとなりました。



広々としたインドアのテニスコート。ラケットも思い切り振れます

新しい繋がり

また、兵庫教育大学が運営する、学生参加による不登校支援ネットワーク、「NANA つくす」の参加団体となり、提言を行なってきました。特に、学生が居場所に行くだけでなく、居場所の子に大学に来てもらって交流することや、フリースクールの子からの「こん

な先生にはなって欲しくない・こんな先生になって欲しい」という声を取り上げての、学生との交流会などについて提案しまして、前者は実現し、後者も前向きに捉えていただいています。

2006年度の終盤には、大阪市青少年会館が運営する不登校の子のための居場所、「ほっとスペース」とも、活動の連携をはかるように動き始めました。さらに2007年度は、助成金を得て大阪府内の官民の居場所についての情報冊子を作って、保護者のもとに情報が届くように活動していくこともあり、行政との連携や他団体との協力関係の拡大に、いっそう努めていきたいと考えています。(松浦豊)

◇ 報告その2： 子どもたちとの日常

[みなも遊戯王大会] 大会をやっちゃいました！賞品はレアカードということで、どんなデッキなら勝てるのか、あーでもないこーでもないと色々作戦を考え、いざ大会開始！ 実際の会場のような緊張感の中、とてもいい試合をしてました。あちこちで「ああ〜!!!」とか「よっしゃあ!!」とかいう声が聞こえてきて(笑)。遊戯王カードって戦法にも個性があり、見ていて面白いです。ガンガン攻めていくタイプや守備強化タイプ、一発逆転タイプと色々♪ カードの種類も多くて、覚えるだけでも大変なのに皆すごいです。

[声研(声優研究会)] 静かなイベント部屋が増えたことで、より集中して出来るようになりました。最初は既存のシナリオを使って録音してたのですが、慣れてきたら少しアレンジして皆のセリフの語尾に「～ですの!」と付けて遊んでみたり。また、元のキャラに声を合わせるのもいいけど、自分達の声色に合うキャラクターを作ってみたら面白いかも…ということで、キャラ設定からシナリオまで自作のものもあって、どんどん本格的になってきます。

[遊び] 大量にあるクッションや毛布等を使い、基地を作って遊びました。「ここが入り口で、ここはこっちへ通り抜ける道～」なんて感じで、カッコいいのが出来てました☆ 大きいソファを使って作った時もあり、子供達の発想ってすごいなあと感心。その流れで、別の部屋には室内アスレチック的なものも出来てたり

して(笑)。みなもかくれんぼも人気で、棚の隙間・机の下・毛布の中と探せば色々隠れるところはあるんですね。ダミー作戦もどんどん進化していき、隠れる側が他の子と服や帽子を交換したりして、「見つけた!」と思ったら「違うやんかあ! (笑)」なんて事もありました。

ゲームでは、HALOのネット対戦が人気です。やっぱり世界は広い!! 時々「この人めっちゃ上手い!」っていうすごい人がいたりして、やりがいがありそうです☆ 強い人達と対戦し出すと、皆どんどん上手くなりますね! 吸収が速いです、ホント。そして、いい戦法を見つけたようで「ニシザキ」なんて名前付けてました。みなもの子のネーミングセンス大好きです(笑)。



順位に応じて、賞品の遊戯王カードをプレゼント!
レアカードをゲットしたのは…!?

【1年を振り返って】 イベント部屋・声研など新しく始めたこともあり、子供と一緒にみなもも成長してるなあと思います。皆の身長もどんどん伸びてますしね。…どんどん抜かされてます(´・ェ・`) ;) そして子ども・ボランティアともに人数が増え、ますます賑やかになりました♪ でも、皆でコタツを囲み、熱い緑茶を飲みながら団らんするの〜んびりな「みなもカラー」も健在です。(中居史)

◇ 報告その3： 「まんま会」の1日

「みなものまんま会 (通称、まんま会)」は、「フリースクールみなも親の会* (仮称)」という名前で、2004年12月に始まりました (2006年2月に現在の名称に変更)。今年で「まんま会」も3年目です。ここでは、これまでの活動の振り返りをしたいと思います。

～「まんま会」とは?～

「みなものまんま会」は、毎月基本的に第3土曜日に行っています。時間は、13時半から17時頃までとされていますが、終了時間は、皆さんの気の済むまでということもよくあります。もちろん、一度終了の合図はするのですが、月に1度の会なので、積みも積もった気持ちやお話を、まだ話し足りないという方もおられます。そんな時は、スタッフの都合のつく限り、残っていただけるようにしています。

みなもでは、スタッフが若手であることから、「親の会」開始当初から、中尾さん (みかんさん) というアドバイザーに来ていただいています。みかんさんは、ご自身のお子様が不登校になったことがあり、現在も不登校関係で積極的に活動されています。参加方法は、フリースクールの会員か否かに関係なく、参加したい方に参加していただいています。参加者のお子さんの年齢は、小学生から高校生年齢まで幅広く、話題も学校との対応についてや進学のことなどさまざまです。

～2006年度の活動～

「親の会」を開始した最初の1年間は、みかんさんとスタッフだけという日々も少なくはありませんでした

* 「親の会」

「親の会」とは、不登校の子どもを持つ保護者のための会で、日本全国で同様の会が開催されています。「みなものまんま会」もそのひとつです。そこでは、同じ悩みや状況を共有する保護者が集まり、情報交換をしたり、状況の打開策を検討したり、相談をしたりする活動をしています。

「親の会」の体制も場所によってさまざまで、不登校の子どもを持った経験のある保護者が会を運営しているところもあれば、教師などの関係者が運営しているところもあります。また、参加方法も、フリースクールに親の会がついている場合などは、フリースクール参加者に限定するところや、親の会単独で運営している場合は、希望者に広く開かれているところなどさまざまです。

た。活動を始めて2年を過ぎた今、スタッフを含めて参加者が10名前後になるのがあたりまえになりつつあります。1年を振り返ってみると、ゲストをお呼びしたり、クリスマスパーティーなどの企画で、事前に皆さんにお知らせをした時に、ぐっと人数が増えるように思います。もちろん、会の良し悪しは、人数で決まるものではないと思っています。ですが、人数には、まんま会に寄せる期待や希望も反映されているように思いますので、スタッフの今後の運営を考えるための一つの資料にさせていただいています。



12月の「まんま会」はプチクリスマス企画。ケーキなども振る舞われました

～まんま会の工夫～

まんま会では、スタッフが工夫していることが5つあります。1つは、ゲストを呼ぶこと、2つ目は、お茶菓子を充実させること、3つ目は、お子さんを置いて家を出られないご家庭への配慮、4つ目は、参加できない方のメールでの参加、5つ目は、メーリングリストです。

【工夫その1】 ゲストについては、フリースクールみなもにとって身近な方々にご協力していただいています。例えば、イベントで知り合った方や、みなものボランティアとして来てくださっている方々です。保護者の立場でゲストとして来てくださる方のお話はもちろんのこと、ボランティアの方々のお話も、保護者の方々の参考になるようです。自分の子どもには直接は聞けないけれども、子どもの年齢に近くて気持ちがわかるかもしれないボランティアの方であれば、聞い

てみたいということがあります。ご協力していただいた方には、この場をお借りして感謝の気持ちをお伝えします。

【工夫その2】 2つ目は、お菓子です。まんま会に来ていただく楽しみを増やしたいと思い、毎回、どんなケーキやお菓子がいいかを考えています。洋菓子の方が多いのですが、時には和菓子もお出しすることもあります。季節を考えて、季節限定のチョコレートを買うこともあります。これは単なる個人的な好みかもしれませんが。

【工夫その3】 3つ目の、お子さんを置いて家を出られないご家庭の場合は、お子さんと一緒に過ごすスタッフやボランティアもいますので、一緒にまんま会に来ていただいています。時には、フリースクールを卒業したけれども、一度顔を出したいと言って、お母さんと一緒に来てくれる子どももおり、まんま会を通して久しぶりに子どもに出会えるということも、スタッフにとっては楽しみの一つでもあります。

【工夫その4】 月に1度の会ですが、もちろん参加したくても参加できない方もおられます。まんま会に行くことはできないけれども、みんなの意見を聞いてみたい、どうしたらいいかヒントがほしい、そういう時は、あらかじめメールで、今の状況と聞きたいことをまとめてお知らせしていただきます。そして、まんま会の中で、参加者の皆さんから意見をいただいて、まんま会が終了してからお返事をしています。

【工夫その5】 メーリングリストは、2006年8月から始めましたが、今では、登録者が19名にまで増えました。メーリングリストへの参加条件は、まんま会に一度は参加したことのある方です。このような参加条件を設けたのは、一度は会ったことのある方、あるいは会える可能性のある方とのメールのやりとりの方が、安心していただけるのではないかと思ったからです。メーリングリストでは、毎月、まんま会の日程のお知らせと、その月のまんま会の報告をメールでお知らせしています。困ったときの助け舟、あるいは情報源の一つになることができたらと思っています。一人ではなくて、味方になってくれる人がいる、そう思えると力が沸いてくるのではないかと思います。

～まんま会の1日～

まんま会は、13時半から始まります。たいてい時間どおりにはそろわないのですが、三々五々集まって、ある程度の人数が集まるまでそれぞれにくつろいでいただいています。14時ごろでしょうか。ある程度の人数が集まると、自己紹介から始まります。毎月毎回、参加者の顔ぶれが違うので、自己紹介は大切な時間です。日常生活の中で、なかなか、自分だけが話をする時間が提供されるということは、ないように思います。最初は皆さん緊張されているのですが、まんま会のいいところ(?)でしょうか、緊張などしていられなくなります。一人のお母さんが一生懸命話をしていると、周囲の人はもちろん一生懸命聞きながら、「わかるわあ〜」とか、「その情報私も知りたい!」とか、首が折れてしまうのではないかと思うくらいにものすごい勢いでうなずいたり、たくさん合いの手が入ったり、反応があり、一瞬にして「一人だけ」のお話から、「みんな」のお話に早変わりしてしまうからです。

一通り自己紹介と、相談したいことやみんなと話したい話題を集めた頃、大体15時から15時半頃でしょうか、休憩を入れています。この時間に、お茶とお菓子を出して、みんなでにぎやかにおやつを楽しみます。おやつタイムを終えて、16時頃にまだ話きれていない話題についてみんなで話をしたり、話したりない方に話をさせていただいたりします。17時半頃に終了の合図をします。皆さん根っこが生えたように、なかなか動きにくそうにされるのですが、ご都合がおりの方もいらっしゃるの、帰る方もいます。もちろん、残られる方もいらっしゃいます。その場合は、参加者の話したいと思う気持ちが続くまで「まんま会」が続くこともよくあります。

よくいただく声を簡単にここで紹介させていただきます。参加してくださった方々からは、「元気を頂いた」「色々成長させて貰えた」「気持ちが楽になる」「子どもにやさしくなれる」といった声をいただきます。やはり皆さんが元気になって帰られる姿を見ると、スタッフも元気をいただいたように感じます。

～おわりに～

一人でも多くの方が、まんま会や、フリースクールみなもをきっかけにして、安心できるひと時を過ごしてもらえたらと思います。そして、安心していただき

ながらも、新しい空気を入れていきたいと思います。色々な人と出会うことから、新しい何かが生まれるように思います。来年度も皆さんに新しい出会いが提供できるよう、そして安心空間を築いていけるよう、努力していきたいと思っています。(中村有美)

◇ 報告その4 : みなも運営レポート

こんにちは、今川です。ここではいつものようにみなもの運営状況をお知らせします。今回は年度末ということもあり、2006年度の運営について、全体的に振り返ってみたいと思います。

2007年2月時点での、一ヶ月の主な収支は以下のようになります。

1か月の主な収支

収入		支出	
利用者月会費※1	254,500	スタッフ報酬※1	26,000
		家賃※2	155,000
		光熱費	12,918
		交通費補助	35,007
		電話代	3,964
		インターネット代	4,885
		消耗品費	10,768
254,500		248,542	

※ 1：2007年2月度実績

※ 2：2007年2月～、定額。水道費含む

その他の項目は、2006年度平均もしくは定額

【スタッフ報酬】 2006年10月より、少額ですが常勤スタッフに報酬を支払えるようになっていました。その額は月に一人あたり6,000円～20,000円程度で、また月によって支払えない月もあつたりと、まだまだ十分なものではないですが、安定した経営に向けて一定の進歩と言えるかと思います。

【会員数】 2007年2月現在、会員数は18人となっています(通常会員8名、夕方限定会員1名、日数限定会員7名、体験入会2名)。昨年4月時点で12人だったのに比べ6人増え1.5倍、またそのうち通常会

員は昨年4月は4人だったので、4人増え2倍となっています。

【403号室】 それに伴い、現在の部屋（ふじビル502号室）だけでは手狭になりつつあるため、同じふじビルの403号室を新たに借りることになりました（スタッフ・宇陀との共用）。それに伴い、家賃が95,000円→155,000円となりましたが、現状ではこの支出に耐えうる状況にあります。

403号室は原則として、何らかの活動（声優の練習、バンド練習、学習等）のためのスペースとして利用しています。活動の予定が何もないときには、502号室と同じく自由に使えます。



403号室の内部。もともと、ヒーリングルームとして使っていた部屋なので、ゆったりと落ち着いた雰囲気です。

【スタッフ体制】 昨年度のメンバーに加え、中居史を新たにスタッフとして迎えました。平均週3日の稼働で、主に子どもたちとの日常活動に携わっています。また今川将征、松浦豊は引き続き週5日来ているので、現在子どもたちとともに過ごす時間は、今川・松浦・中居の3人がメインになっています。

また、中村祥規、中村有美の2名が週1日シフトに入っているほか、その他運営方面で活動しています。

【今後の展望】 今後みなもを安定して運営するためには、現在の約2倍ほどの事業規模にする必要があります。簡単に言えば、新しく借り始めた403号室に常に子どもがいる状態、と言えます。

そのために重要なことは、これまでと同様もしくはそれ以上に、子どもたちに満足のいく環境をいかに提

供できるかでしょう。会員の少なかった初年度は、1人の子どもに対しスタッフが手厚いサポートをすることもできました。しかし会員の増加により、メインスタッフが一人の子どもに接する絶対的な時間は少なからざるを得ません。その中で子どもたち一人一人のニーズにどれだけ応えられるかというスタッフ陣の努力、またスタッフ陣をカバーしうるボランティアの方々を、いかにコーディネートできるかが課題となります。（今川将征）

◇ 報告その5： 「居場所」情報誌の制作

みなもでは、2006年10月からドコモ市民活動財団から助成を受けて、大阪府内の「居場所」についての情報誌作成に向けて取り組んでいます。今回作成する「居場所」についての情報誌とは、大阪府内の不登校の子どもたちのための場所をなるべく全て集めたものです。その情報誌を見ると、大阪府内のフリースクールやフリースペース等の居場所情報を一覧することができるようになればと思っています。

情報誌を作る意義

なぜ、情報誌を作ることになったのか？ 理由の一つは、公立学校からは、特定の民間の居場所を紹介することが難しいという現実を知ったことです。公立学校から、不登校になった子どもやその家族に向けて、多様な情報が届けられない場合、一番困るのは本人と家族です。公的な相談機関や医療機関で、抱えている不安や不満が解消されない時、何の情報もなければ、地域の中で孤立することもあります。「なぜ学校へ行かないの？」という質問を近所の人から言われるのが怖くて、外へ出られなかったり、ゆっくり買い物もできないということも、よくある話です。大阪府内の情報が集約され、一目で見ることができるようになれば、不登校になった子どもや家族が自ら行動しやすくなるのではないかと期待しています。

また、大阪府内の居場所情報を、フリースクールを運営している側である私たちも十分には把握していないということも理由の一つです。スタッフが知らなけ

れば、みなもがお子さんに合わなかった場合、別の場所を紹介することができません。その子どもに合いそうな場所がどこにあるのか、他の場所を知っていれば紹介もできます。

さまざまな意見を参考に

今回作成する情報誌の特徴は、全ての民間の居場所について、実際に足を運んで訪問し、調査をするということです。直接会ってお話をして、相互に知り合う中から情報誌が作られていきます。

この情報誌を作成するために、検討会議を設け、有識者や非営利組織を運営している方々に協力していただいています。会議にお集まりいただいているのは、私、中村有美の指導教員でもある、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの渥美公秀助教授、NPO 法人関西子ども文化協会の柳瀬真佐子さん、不登校ネット大阪の山下耕平さんのお三方です。お三方には、検討会議の委員として、どのような内容にするか、どんな項目を掲載するかなどについて、ご意見をいただいています。また、教育行政やその関連団体の関係者の方にも、オブザーバーとして会議にご参加いただいたり、みなもの保護者や「まんま会」の参加者の皆さんに、保護者としてどのような情報が必要か、ご意見を伺ったりもしています。こうしてまとめた編集方針をもとに、4月以降、府内のフリースクール・親の会を訪問させていただく予定です。



検討会議の様子。いいものを作るには何が必要か、みんな真剣です。

プロジェクト、いよいよ始動！

4月から8月半ばまでは、情報収集のために大阪各地を歩き回ります。いつのまにか大阪通になっているかもしれませんね。また、これをきっかけに大阪府内の不登校支援団体との交流を深めることができたらと思っています。

せっかく府内の居場所・親の会を訪問するので、もし関心のある方がおられましたら、一保護者として、あるいは一スタッフとして一緒に訪問してみませんか？一緒に訪問していただく場合の交通費やその他の経費については、ご負担のないように考慮する予定でいます。興味のある方はスタッフにお声かけください。また、府内の団体リストや情報誌フォーマットに関心のある方がおられましたら、スタッフにお声かけください。是非皆さんのご意見を伺いながら、情報誌を作成していきたいと思えます。(中村有美)

● ボランティアの声①： 入部正也さんから

はじめまして、ボランティアでお世話になってます入部(いるべ)と申します。みなもとの関わりは、この春で、ちょうど2年くらいになります。

生活的な匂いのする部屋

遡ること2年前に、以前からフリースクール等の活動に関心があり、もう一つ、自分が小・中学校の頃に学校へ行かなかった時期もあって、何故だか自分でもわからないのですが、4月から仕事(6年ほど前から障害福祉関係のNPOで働いています)以外の何かをしてみたいという気持ちとあいまって、深夜、何気なくパソコン使って検索していたら、「みなも」のホームページでボランティア募集を見つけて「これだあ!」と思って連絡したのがはじまりでした。

みなもにお伺いするようになった当初、施設的な雰囲気ではなく、マンションの一室という生活的な匂いのする広い子ども部屋のような中で、スタッフの方とそこを利用する子どもたちが、「いろいろやってるんだなあ〜」という漠然とした印象を受けたような気がし

ます。

ただ、一見すると混交したような場面に、基本的には出入り自由？のゲーム部屋や勉強部屋、読書（マンガ）部屋であったり、時には話し部屋になったりと実は機能的に区画整備されている不思議な場所で、そんな中でも特に感じたのは、スタッフの皆さんの子ども達と向き合う姿勢とみなもという場所に対する想いでした。それをどう表現したらいいのかわかりませんが、とにかく非常に良い意味で「スゴイ！」と感じました。

自分のペースで関われる場

ある日、「なんで、みなもにボランティアに行っているの？」という質問を受けたことがありました。その時は、関わるようになったきっかけを話した程度で終わりました。

…で、少し考えてみました。仕事の都合もあるのであまり行く機会がないと思いつつも、時間が出来たら行ってみようという気持ちになるのは何故か。それで思ったのが、みなもが「行きたいと思う場所」で、その「行き方」を、否定若しくは拒否されていない、ということなのではないかと。それは、単に居心地が良いから行きたいという意味ではなく、自分のペースで行き方を決めさせてもらっているということで、そんなの当たり前と思われてしまいますが、関わりに何がしかの義務や使命感があると感じてしまうところは思えないものです。ただ、ボランティアとして関わるうえで、ある程度の心がけは必要だと思うのでそこは意識しつつ、でも自分に無理せずに関われる。そんな場所だと感じたからでしょうか。

そういう場所だからなのか、マイペースな僕にとってはありがたいと思いつつ（勝手にそう思っているだけです）細く長いお付き合いを続けさせていただいています。そんな関わりなので、2年といっても長いという気持ちは薄く、まだまだな感覚でいます。

最近、仕事の都合等で回数も減り、平日も顔出し程度、土曜日の親の会や保護者会の時に伺うような機会しかないのですが、若干申し訳ない感もしますが、こんなヤツでもあたたかく受け入れてくださる（そうだと良いのですが…）みなもの皆さんに感謝です！ 今後ともよろしくお願いします。（入部正也）

○おまけギャラリー



インターネットで調べものの図。何を調べているのやら…



クリスマス会のひとコマ。この日はひきつづきお泊まり会でした。



近くの神社に初詣。今年もいい年になりますように…

● ボランティアの声②： 野上彩さんから

はじめまして。ボランティアの野上(のかみ)です。早いもので、みなもに来るようになって約1年。私の名前を知らない人もまだまだいるとは思いますが、4月から大学院に進学することもあり、今後はみなもに頻繁に来られなくなってしまうと思います。そこで、私がこの1年間、みなもで何を感じ、何を得たのか、この機会に振り返ってみることにします。

母の話がきっかけに

私がフリースクールに興味をもったきっかけは、養護教諭、いわゆる保健室の先生をしている母の話でした。母から不登校の子どものいろんな苦労話を聞くうちに、「不登校の子どもに実際に会ってみたい」と思うようになり、みなもでボランティアを始めました。

実は最初、フリースクールに来ている子どもと接するのは難しいだろう、と考えていました。私自身は、学校に行くことに何の疑問も持たず学校生活を送っていた子どもだったので、不登校の子どもとはどう関わったらいいんだろう、私に何ができるんだろう、と不安に思っていました。

変わる不登校のイメージ

しかし、みなもでやったことといえば、マンガを読んだり、ゲームしているのを見たり、テニスしたり、カラオケに行ったり、話したり。みんなと一緒に遊んでいただけでした。そんな中で、「不登校の子って難しい子なんだろうなあ」という印象が、だんだんと「みんな普通の子だなあ」と感じるようになっていきました。何を普通というかは難しいと思うし、それぞれ葛藤も抱えているんだろうけど、みんな興味ある事に熱中して、遊んで笑って。子どもたちへの印象が変わるとともに、私自身の関わり方に対する考え方も変化しました。ただ一緒に遊んだり話したり、子どもが何かやりたい、行きたいということがあれば、自分の分かることならちょっとだけサポートしたりしてみることが、ここで今の私にできることなのかなと感じるようになりました。まずは子どものペースに合わせて関わ

っていくことが大事であるということ学んだような気がします。アニメもゲームも分からないことが多すぎて教えてもらってばかりで、ペース乱してばかりでしたけど(笑)。

みなもに関わる前のフリースクールに対する印象は、「不登校の子どもたちが行っているところ」という漠然としたものでした。実際に関わってみて、フリースクールは学校に行けない、あるいは行かない不登校の子どもたちの単なる受け皿ではなく、子どもが自分のペースでやりたいことをできて、他者の力が必要ならその時はサポートを得ることができる、ゆっくり成長していける場所ではないかと思うようになりました。みなもはそのゆっくろさが心地良い場所だと感じます。また、子どもたち同士、スタッフやボランティアという様々な他者と関わりをもつことができるという点も、フリースクールの大きな魅力だと思います。特にみなもは、「そんなことどこで知るの!？」と思わず聞きたくなるような知識をもっていたり、個性豊かな人が多く、本当にいろんな人と交流できる場所だと感じました。

これからもよろしく!

この一年、みなもでみんなと出会い、いろんなことを教えてもらいました。フリースクールという場所を知れたことはもちろん、みなもに来なければ絶対知らなかったアニメの世界に触れたこと(笑)なども価値ある体験でした。みなもから帰る時、スタッフさんから「ありがとうございました～」と言われるんですが、いつも「そんな事ないです。私も楽しかったです!」という気持ちになっていました。ということで、ここで言うておきます。こちらこそありがとうございました。また時間を見つけて遊びに行くので、その時はどうぞよろしくお願いします!(野上彩)

● コラム： 「不登校はオセロのよう」

まんま会で、ある参加者が「不登校はオセロのよう」と表現されました。それを聞いた参加者の多くが大きくなさりました。まんま会の参加者は前後の文脈も

あって納得できるのですが、「不登校はオセロのよう」だけでは、わかりにくいかもしれません。「不登校はオセロのよう」に含まれる意味を、ここで皆さんと共有できたらと思います。

終わらない理由探し

多くのお母さん方が、お子さんが不登校になると、「私の育て方が悪かったから?」「子どもに何か病気や障害があるのかしら?」「学校の先生の対応が悪かったから」と、考えつく限り、不登校の理由を探す日々を送らざるをえない状況に追い込まれてしまいます。一つの理由を探そうとしてしまうのです。

ですが、「オセロのよう」が教えてくれるのは、不登校に唯一の理由はないということです。黒色を白色に変えようと思うと、黒色の両端を白色ではさまないとはいけません。また、両端を挟むためには、準備もまた必要です。つまり、たった一つのことでは、子どもが急に変わることはないのです。

「オセロのよう」が教えてくれること

オセロは、ゲームを続けるうちに、いつの間にか一瞬にして色が変わってしまうように感じることがあります。不登校もそれに似ています。親の立場から見ると、急に学校へ行かなくなったように見えるのですが、子どもの立場からすると、自分の行動を変えざるをえないように、周囲の状況が変化しているのです。親にはとうてい想像しきれないほど、色々なことが複雑に絡まりあった結果、子どもは学校へ行かない、このことを「オセロのよう」が教えてくれるように思います。

最後に、「オセロのよう」の良いところをお伝えして終わろうと思います。「オセロのよう」の良いところは、「どうしてそこが黒に変わったのか?」と悩むに留まらず、「次どうしたら、白に変わるかな?」と作戦を練るところです。保護者も、子どもの行動を変えることができる、コマの一つです。一つの理由を探すことから、次のステップへ進むことへと、「オセロのよう」は導いてくれるように思います。(中村有美)

◆ みなもけいじばん

➤ ありがとうございます

2006年9月から07年3月の間に、活動資金や物品のご支援をいただいた皆さまは、下記の通りです。ここに記して、感謝申し上げます。

なお、ご芳名の記載については幾たびかの確認をしておりますが、万が一お名前のもれがありましたら、ご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

【賛助会員】藤村美沙さま

【寄付・寄贈】渥美公秀さま、今川佳代子さま(書籍等)、尾崎充子さま(切手)、クロスロード・嶋田香弥子さま、陶さま(家電製品)、ソハママミュージックさま(楽器)、大傍さま、H・Nさま、中平さま、A・Nさま(ボードゲーム)、前田さま(順不同、五十音順)

【助成金】特定非営利活動法人モバイル・コミュニケーション・ファンド「ドコモ市民活動団体への助成事業」(助成題目:「孤立から参加へ〜困った時に孤立しないためには〜」情報誌作成、助成額:100万円)

➤ 賛助会員・カンパのお願い

フリースクールみなもは、不登校の子どもたちのための、学校に代わる居場所と学びの場を設け、不登校の子どもを持つ家庭への総合的な支援を行うことを目指して、有志によって設立されたNPO法人(特定非営利活動法人)です。子どもたちやその保護者・家庭にとっての支えとなるべく、スタッフ一同、活動の充実に日々努めています。

しかしながら、もとより営利を目的とした事業ではないので、こうした資金だけで行える活動には、限りがあります。そこで、みなもの活動を応援して下さるかたには、賛助会員への応募をお願いしています。賛助会員の皆さまには、「みなも通信」をお送りさせていただきます。

賛助会費のお支払いは、スタッフに手渡し、または郵便振替で。郵便振替の場合は、「氏名」「住所」「電話番号」「費目(賛助会費として)」「会報への氏名掲載の可否」を備考欄に明記の上、下記の口座まで、お願いいたします。

【賛助会費】1口 3,000円/年(複数口のご応募も歓迎)

迎)。振込先：00960-0-204146（加入者名：フリースクールみなも）

➤ 譲ってください！

現在、必要としているのは、下記の通りです。ご家庭にあるもので、現在お使いになっていないものがありましたら、みなもまでご連絡ください。（それ以外にも、フリースクールの活動に役立ちそうなものがあれば、ぜひご一報ください）。

【必要なもの】グローブ／練習用のドラムセット／ベース／アンプ／録音周辺機器（ケーブル、ミキサーなど）／調理器具／黒いスーツ／自転車／いらなくなった教材／書籍／CD／ノートパソコン（Windows2000かXPの動くもので）／ビデオカード（グラフィックカード）／硬式テニスのボール／各種文房具・事務用品／切手など

※賛助会員にご加入いただいた方、ご寄附・ご寄贈をいただいた方につきましては、「みなも通信」にてご芳名を掲載し、お礼とさせていただきます。匿名をご希望の方は、あらかじめ、その旨お申し付けくださいますよう、お願い申し上げます。

➤ ボランティア募集！

フリースクールみなもでは、ボランティアを募集しています。ボランティアをするにあたっては、特に必要な資格などはありません。子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしたい、という気持ちがあればOKです。ご関心をお持ちの方は、お気軽にみなもまでお問い合わせください。

➤ 「まんま会」のご案内

フリースクールみなもでは、毎月第3土曜日に「みなものまんま会」（不登校の子を持つ親の会）を開いています。「まんま会」は、不登校のお子さんを持つ保護者の皆さんに、お互いの気持ちを共有し合える場を提供することを目指した会です。みなもの会員であるかどうかにかかわらず、どなたにでも参加していただけます。参加をご希望の方は、ぜひお気軽にお問い合わせ下さい。

【概要】 日時：毎月第3土曜日の13:30～16:30、場所：フリースクールみなも、参加費：500円（お茶菓

子代として）、アドバイザー：中尾安代さん（みかんさん＝結空間代表）、担当スタッフ：中村有美

➤ ブログ・掲示板のご紹介

みなもでは、日々のようすを写真付きでブログに書きつつっています。みなも内のようすや外出した時の話、みなもの中で話題になったこと、それから「まんま会」のようすやシンポジウムなどに関する事なども書いたりしています。

また、みなものホームページでは、2つの電子掲示板（BBS）を設置しています。このうちの1つ、「不登校・フリースクールなどについて話しましょう」掲示板で最近取り交わされているのは、以下のような話題です。「子どもを頼ることの必要性」「自分はダメだ？」「いじめ対策レジュメ」「先生、ビンタはむかつくぜ！」。もしよろしければ、一度ご覧ください。書き込みもお気軽にどうぞ。

◆ スタッフひとこと

「プロ野球シーズンが始まりました！今年も発売日に甲子園のチケットを大量購入☆ 月イチペースで見に行きます(-.-)（今助）▼道ばたで小学生らしき子のテストを拾いました。一応目立つ所にまた置いといたんですが…。100点のテストを無くすとは!!!!（なかい）▼「みなも」のあるふじビルの一階に、薬膳カレー「王様のスプーン」が開店、結構通ってます。薬効スパイス沢山！汗をふきふき心地よい辛さ！お蔭でこの冬は風邪をひいても薬いらず☆（くらら）▼教員採用が決まったのんびり生活♪ まだまだ寒いのでこたつでまるまるの日々しつつ読書にふけてます♪（くらけん）



文章書くの苦手です(泣)。でも、みなもを振り返るのにはいい機会でした☆そうそう、やっと！ついに！DSゲットしたよ～！（のかみ）▼最近、少しずつですがギターやベースをみなもの子に教えてもらってます♪音楽は年齢なく楽しめるのでいいですね☆（末）▼あなたのぴったり、みなもへさがしにきませんか？（いぶき）▼ときどき、みなもの子と心理テストをします。いつも結果に「有り得ねえー！」と大笑い。不

純な使い方して、制作者さんゴメンナサイ。これもひとつの楽しみ方（マイヤ）▼毎週声研やっています。かなりの回数やったので、みんな得意不得意が分かってきたかと。フォロとの合同練習もあるので、これからも上達していけると思います。（ちゅま）

◇

ほぼ1年間府教委でバイトをしてきましたが、3月で終わります。行政の立場が少し変わったような気がしました（じょに〜）▼仕事にも慣れてきましたが、早くも仕事以外の生き甲斐を模索中…。早く見つかるというなあ〜（マイク）▼今春から大学院に進学します。いろいろ回り道もあったのですが、「やりたいことに適齢期はない」というのを、自分でも実践していければいいなと思っています（のりのり）▼最近日本全体がしんどいような。子どもも大人もしんどくなっている。でもだからこそ、元気になるところから始めたいですね。（でっせむ）

◆ 編集後記

おかげさまで、無事、「フリースクールみなも通信」第4号をお届けすることができました。ご一読いただければ幸いです。

さて、この「みなも通信」、私が主に編集作業を担当するようになって3号目になるのですが、この担当、実は結構なお二編集者だったりします。せっかくスタッフが原稿を書き上げてきても、「アカン。書き直し」のひとつことで、一から書き直してもらうこともしばしば。もちろん、「もっとほかにやってきたこと、言うべきことがあるはずや」という気持ちがあることなのですが、執筆者の各スタッフにとっては、なかなか小うるさい存在だったのではないかと思います。

それでも、こちらの意図を汲んで、あるいはそれ以上のものを持って原稿を返してくれる、みなもの各スタッフはさすがでした。おかげで、力作ぞろいの記事を揃えることができました。なかなか面と向かって口にすることもないので、この場をお借りして、ひとこと感謝の気持ちを述べさせていただきます。

また、今回は、ボランティアのお二方にも、寄稿をお引き受けいただくことができました。人それぞれ異なる「居場所」観の中にも、どことなく相通じるとこ

ろもあって、私自身、二編とも興味深く読ませていただいたところです。

それにしても、各執筆者と原稿のやり取りをしながら改めて感じたのは、みなもの活動にもずいぶんと広がりが出てきていることです。それじたいはとても喜ばしいことなのですが、反面、新たな課題が生まれつつあるのも確かではないかと思えます。ともすれば日常の活動に追われてしまいがちなだけに、「みなも通信」の発行は、自分たちの立ち位置を見つめなおすという意味で、私たちにとっても貴重な機会なのだなということが、今回よく分かりました。

これをお読みの皆さまにおかれましても、ご感想、お気づきの点などありましたら、みなもスタッフまでぜひお聞かせください。どうぞお願い申し上げます。（中村祥規）

『フリースクールみなも通信』第4号

発行日：2007年4月1日（本号12頁）
発行所：特定非営利活動法人フリースクールみなも
発行人：今川将征
編集人：中村祥規

特定非営利活動法人フリースクールみなも

会員（利用者）：18名（2007年3月現在）
対象年齢：6歳～20歳（入会：18歳まで）
活動時間：月曜日から金曜日の13時～20時
入会説明会：随時（体験入会は無料、6週間）

◇ ◇

代表：今川将征（理事長）
スタッフ：常勤2名（ほか非常勤数名）
住所：〒530-0047 大阪市北区西天満五丁目11番4号ふじビル502号（地下鉄「南森町」駅から徒歩5分、各線「梅田」駅から徒歩20分、JR東西線「大阪天満宮」駅から徒歩7分）
電話・FAX：06-6365-7705
E-mail：fs-minamo@nifty.com
郵便振替：00960-0-204146（加入者名：フリースクールみなも）
